

DATA FILE



斜方晶系

名 前	CHRYSOCOLLA (クリソコラ) / 珪孔雀石
化学組成	$(\text{Cu,Al})_2\text{H}_2\text{Si}_2\text{O}_5(\text{OH},\text{O})_4 \cdot n\text{H}_2\text{O}$
色	緑色、青色
光 沢	ガラス光沢、脂肪光沢
蛍 光	なし
条 痕	白色、緑色
劈 開	なし
断 口	貝殻状
硬 度	2 ~ 4
比 重	1.9 ~ 2.4

けい く じゃく せき

珪孔雀石

CHRYSOCOLLA

斜方晶系と考えられているが、確定した結晶構造は現在のところ不明。

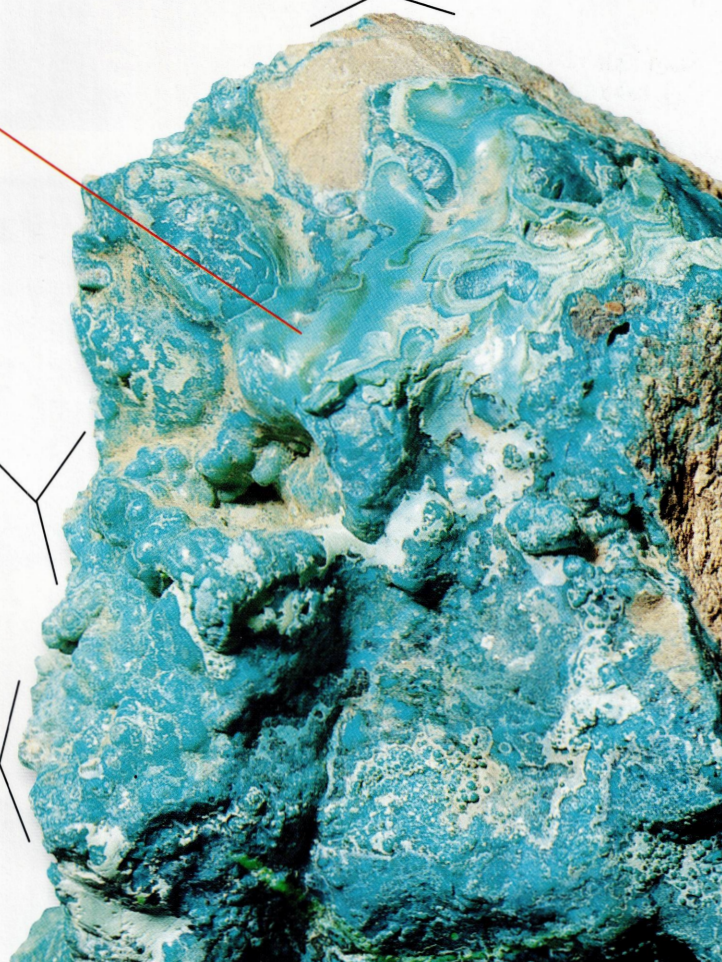
塊状で産出した珪孔雀石。

結晶は緑色や青色で、ガラス光沢や脂肪光沢を持つ。

素焼きの陶板にこすりつけると白色または緑色の条痕が残る。

空気と水の作用によって酸化した銅鉱床に、二次鉱物として生成する。

かなり非晶質のものが多く、珪孔雀石そのものは非常にやわらかい。



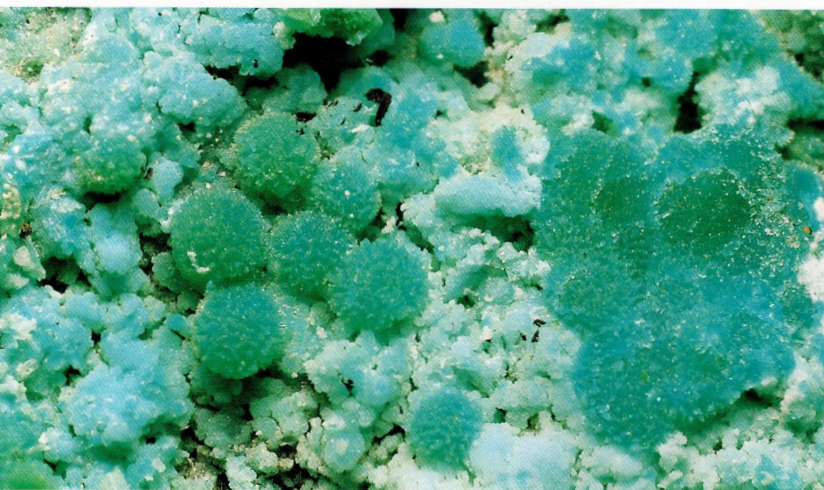
ケイ酸塩鉱物

▶皮殻状の集合体になった珪孔雀石。イタリア産。

他の鉱物を含んで硬化

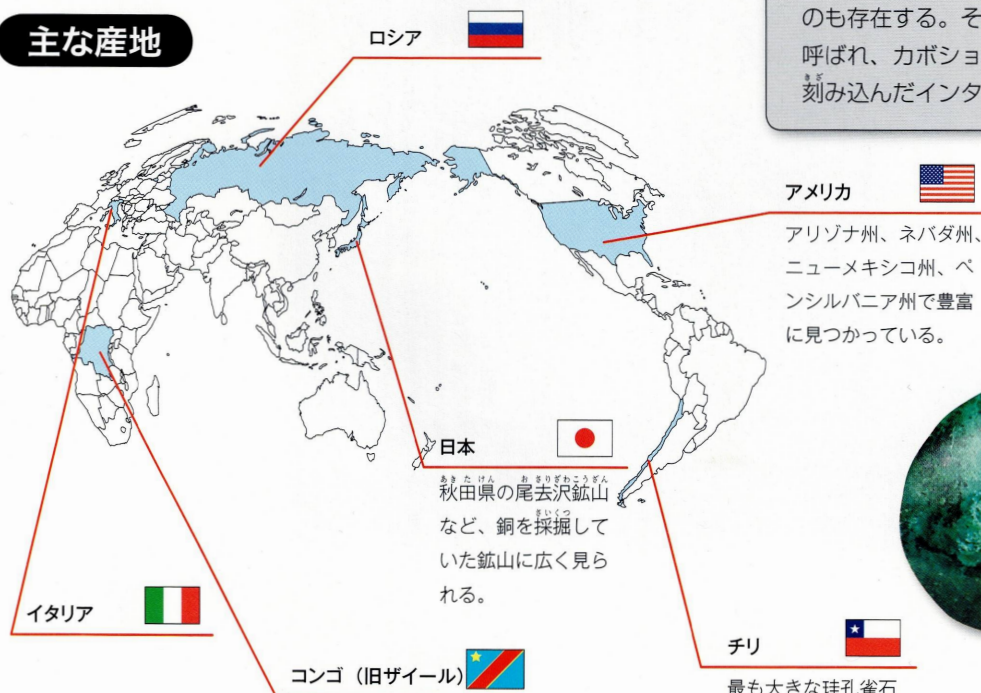
珪孔雀石は、酸化した銅鉱床の上部に生成する世界中で広く見られる二次鉱物で、固形化する前に二酸化ケイ素、水、銅を含むゼリー状の塊になるのが特徴。純粋なものは非常にやわらかく、ほとんどが非晶質だが、孔雀石や藍銅鉱、赤銅鉱、異極鉱、菱亜鉛鉱、トルコ石、バリッシャー石などの鉱物を含むことで硬い塊となる。特に、玉髄、石英、オパールなどを含む珪孔雀石は価値が高いとされ、宝石に加工される。和名の「珪孔雀石」は、外見が孔雀石に似たケイ酸塩鉱物であることから名づけられたが、英名の「クリソコラ」は、かつてこの鉱物が金をはんだ付けする際に使われたという話が残っていることから、「黄金の糊」を意味するギリシャ語を語源としている。

ケ 珪 孔 雀 石



▲珪孔雀石の微晶質の集合体。

主な産地



ジェム・シリカ

一般的に、天然の珪孔雀石は硬度が低くてもろいため、宝石に加工する際の研磨に耐えられるように人工的に固められている場合が多い。しかし、天然に産する珪孔雀石のなかには、石英が入り込んで硬くなった質の良いものも存在する。そのようなものは「ジェム・シリカ」と呼ばれ、カボション・カットが施された宝石や、模様を刻み込んだインタリオのブローチなどに利用されている。



▲藍銅鉱を含むため硬くなり、研磨された珪孔雀石。